

# みんなのジュニア生態学講座

～高校生と若手研究者の交流会～

2023年3月19日(日) 13:30～15:00



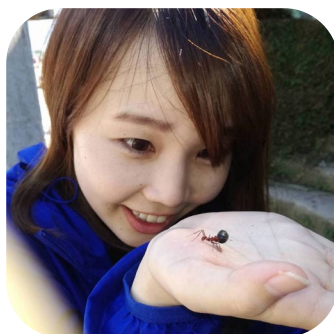
久保雄広 国立環境研究所

経済学とマーケティングで  
生物多様性保全に挑む

私の研究はみなさんが想像する「生態学」や「保全の研究」とは全く異なるかもしれません。私は動物や植物といったいわゆる生きものではなく、ヒトを対象に研究することで生物多様性の保全に貢献したいと思って研究をしています。なぜでしょう。

環境問題の多くは人間活動に起因しています。生きものや自然に興味のある皆さんにとっては自然破壊や開発がこれほどまでに進んでしまうのは不思議かもしれませんが、便利な生活や快適さを求めた結果、気がつけば自然破壊に寄与しているかもしれません。土地やお金、時間などの資源は限られているのです。

今回の報告では「人間行動に立脚した生物多様性保全の促進」をキーワードに、私が学生時代から取り組んできた経済学、行動科学、マーケティングをベースにした研究をいくつか紹介したいと思います。これからの保全に向け、なぜ社会科学的な視点が必要か、保全の実務やビジネス、身の回りの生活とどのように繋がっているのかなどを考えてもらう機会になれば幸いです。



藤岡春菜 岡山大学

むし好きじゃないけど  
アリ研究者になりました

幼い頃に虫取りをして遊んだ記憶はあるものの、中高生の頃にはいわゆる昆虫嫌いになっていました。大学で生物が協力することの不思議を学び、漠然とそれに関する研究ができたらいいなと思っていた頃、私は当時の指導教員に会いました。アリは真っ黒だし、ふさふさしてないし、無駄にテカテカもしてないし、私にもできるかなと思ってアリの研究をスタートさせました。実際に目にすることも、論文で読んで学ぶことも驚きの連続で、大学の研究室では毎日ワクワク過ごしていました。アリの社会では、産卵、育児、採餌などの仕事を巣仲間間で分担しています。私はこの分業に興味があり、働き者のイメージがあるアリが、昼夜の環境サイクルの中でどんな働き方をしているのかを研究しています。

時に辛くも、やっぱり楽しい研究者生活の中で、もやもやする質問があります。それは、アリの研究って役に立つの？でも、将来どうするつもり？でもなく、「女の子なのに昆虫の研究しているの」と言われる時です。時には変人を見るような眼差しを向けられ、すごいね！と語尾についていても、なんとも言えない気持ちになっています。好きなことをして頑張っているだけなので、気にしない、開き直すことにしていますが、「女性の昆虫研究者」としての本音も少しお話しできればと思います。



藤木庄五郎 バイオーム

生態学者がアプリをつくる

僕は大学で生態学を学んだのち、会社を起業するという選択をしました。

幼少期から環境問題に興味があり、将来自分は研究者になって環境問題に取り組むんだと、なんとなく思っていました。大学では、ボルネオ島の熱帯林でキャンプ生活しながら調査をし、生物多様性の可視化技術開発というテーマで研究をしていました。そのボルネオは生物多様性の宝庫である一方で、環境破壊の最前線でもありました。360度地平線まで更地になってしまった場所がいくらでもあります。熱帯林を切り開き、木材を売って油ヤシを植えるなどの利用をしています。僕はそういう光景を見て、伐採の現場に入り、現地の人たちと生活を共にする中で、ごくシンプルな結論を得ました。「お金が儲かる」から環境は破壊されるんだと。当然、お金を儲けないと人は生活できないわけで、そのことを否定することは僕にはできませんでした。なので、環境を保全することで儲かる仕組みをつくらうと決めました。学位を取ってすぐに起業し、生物のデータ収集しつつ、生物の豊かさの価値を感じて、共有できるアプリを開発しました。会社を運営してサービスを開発することは、苦勞と楽しさをぐちゃぐちゃに煮詰めたような経験ばかりでしたが、そんなこれまでの活動の思いや狙いなどをお話できればと思っています。

\* オンライン開催 (2月20日までに要申込み)

\* お申込みはこちらから：[https://esj-meeting.net/registration\\_ja/](https://esj-meeting.net/registration_ja/)